

一筆啓上

# 作左通信



第五号

平成十二年十一月九日(木)発行

今年、八月八日(火)〜

十月六日(金)までの約二か月間、茨城県取手市の埋蔵文化財センターで「本多作左衛門重次と子孫たち」の企画展が催されました。

これは、本多作左衛門が晩年を取手で過ごし、その子孫たちや取手とゆかりのある人々とのかわりを分かりやすく展示しようと計画されたものです。「一筆啓上、作左の会」としては、三月、役員が取手市を訪問し、交流を深めていることから、作左衛門にかかわる様々な写真や資料を送り、

協力しました。

取手市は茨城県南部に位置し、人口は約八万。日本一の流域面積を持つ「坂東太郎」と呼ばれる利根川が流れています。一九八四年(昭和五十九年)の第六十六回、夏の全国高校野球選手権大会で、取手二高が全国制覇したことから、一躍取手市は有名になりました。

昨年からは本多作左衛門が晩年を過ごした地にちなんで「頑固者賞」を創設し、全国からエッセイを募集したところ、約二千点もの作品が集まったといわれています。

八月下旬、企画展が催されている取手市埋蔵文化財センターを訪れました。センターは、利根川近くの閑静な住宅街にあり、建物は昨年作られたばかりでモダンな形をしていました。中

では、係の女性の方が、出土品の保管庫や立派な会議室を親切に案内してくださいました。埋蔵文化財センターといえば作業所のイメージがありましたが、ここは全然違っていました。

企画展は一階で、本多作左衛門に関係する写真や資料が、分かりやすく展示されています。また、六ツ美西部小学校の開校時に、学芸会で演じた本多作左衛門の劇の台本が、休憩室で自由に見られるように工夫されていました。約一時間

の見学でしたが、時間を忘れるほどの魅力ある企画展でした。

「一筆啓上、作左の会」が発足してまもなく一年。本会は、まだ動き出したばかりです。

「地域に根づいて、会がますます発展していくといいですね。」

秋の気配を感じる利根川を歩きながら、センターの方が言われたこの言葉を何度も思い出しました。

